

平成 27 年 1 月 5 日

年始挨拶

北口 治

皆さん、明けましておめでとうございます。今年も昨年に続き長い 9 連休でしたが、有意義に過ごすことができましたか？

昨年は例年にも増して色々なことがありました。ノーベル物理学賞に青色 LED を開発した 3 人の日本人が選ばれ、スポーツでも錦織選手の全米テニス準優勝やソチオリンピックのフィギュアスケートで羽生選手の金メダル獲得等、日本人の大活躍に勇気づけられました。しかし一方、ロシアによるクリミア半島併合やイラクでアメリカのイスラム国への空爆の開始、また多くの高校生の命を奪った韓国旅客船の沈没事故等、心痛める事件も多く発生しました。また御嶽山の噴火や広島の上砂災害等、自然の猛威にも驚かされました。

そして最後のサプライズは、思いも寄らず実施された 12 月の衆院総選挙でした。これはアベノミクスの評価を問うとともに、今年消費税増税の延期を問う選挙でしたが、自公連立与党の 3 分の 2 を超える圧勝で承認を得ました。アベノミクス効果により、昨年末の株価は 15 年ぶり高値の 17,450 円に、為替は 1 ドル 119 円になりましたが、3 月まで順調に回復してきた景気は、4 月からの消費税増税の影響により予想以上の落ち込みとなってしまいました。これは主に民間消費の減少によるものであり、これ以上消費税を上げて景気を冷やすことは何としても避けなければならなかった所です。

デフレによって失われた 20 年の間に、世界の GDP が 3.5 倍に伸長する中で、日本の GDP は 450 兆円から 480 兆円になっただけです。これは日本企業や日本人の能力不足や努力不足によるものではなく、自然現象や宿命でもありません。唯一、人為的な経済政策の間違いにより引き起こされたものです。ということは、正しい政策さえ実施できれば、日本も再び成長軌道に乗れることを意味しています。20 年間普通の成長をしていれば 1000 兆円になっていた経済サイズを、今から取り戻せば良いのです。そのためにデフレ脱出は必達であり、信念を持ってもう一度アベノミクスをやり直さなければなりません。今、円安と原油安が同時に来ているのは、エネルギーや資源の多くを輸入に頼る日本にとってまさに天祐であり、躊躇することなくこの好機を活かすべきです。

今年は戦後 70 年を迎えますが、過ぎた 20 世紀は日本にとってどういう 100 年だったのでしょうか？ それは、「長い鎖国から目を覚ましたアジアの小国が、迫り来る欧米中露の脅威と無我夢中で戦ううちに、気がつけば無敗で世界パワーゲームの決勝戦に立っており、錦織選手のように、見事に準優勝を成し遂げた」世紀ではなかったのでしょうか？ そして 21 世紀は、日本がもう一度世界の舞台で優勝に挑戦する 100 年です。それは「力」で他を支配しようとする覇権主義には「法」で対抗し、「和を以て貴しと為す」共生主義と「弱きを助け強きを挫く」武士道と「匠の技で築く」経済力、そして「四季豊かな天然で育む」文化で世界をリードする日本の姿です。

正月に昨年と同じ初夢を見ました。時は 2020 年、完全に景気回復を果たした日本は、財政問題も解消し、夏の東京オリンピック開催を控えて期待に沸き立っています。NPC も 2014 年度に売上 350 億円を超え、その後も順調に発展し、2019 年度には売上 500 億円を達成しています。技術情報に強いプラスチック専門商社として存在感を増し、樹脂・フィルム・加工品のビジネスを通じて産業界に大きく貢献しています。フィルムビジネスは、設立以来の食品包材に加えて、工業・産業用の高機能フィルムのビジネスが大きく育っています。従来から進めてきた「CEBON」戦略が浸透し、特に超エンプラの取扱額が世界一を達成しつつあります。新しいビジネスの比率が常に 20% を超え、ユーザーの企画・開発に活発な提案活動を展開しています。その中には、急速に台

頭してきた 3D プリンター関連のビジネスも多く含まれます。またグループ製造会社の製品の販売やそれらの会社に製造を委託するビジネスも伸長し、主体性やオリジナリティの高いビジネスの比率が拡大しています。輸出入ビジネスも多くなり、グループ海外現法への駐在員も継続して派遣しています。営業をサポートする在庫・物流・デリバリーなどのカスタマーサービス機能も充実し、管理面でもリスクマネジメントが強化され、コンプライアンス厳守の運営が行われています。財務体質も強化され、自己資本比率は 20%を超えています。

さてこの夢を正夢にすべく、新たな 2015 年が開幕しました。NPC にとって設立 40 周年を記念するとともに、次の 50 周年への歩みを始める年です。また中期計画 CS2014 を仕上げ、次の中期計画を策定する年です。先ほども申しましたが、日本経済は失われた 20 年を取り戻すための躍動期に入ろうとしています。その中で NPC は進む方向を的確に定めて着実に進まなければなりません。それは医療・環境・食品・情報通信・家電・自動車等の分野で、日本企業が得意で強い用途へのアプローチとサポート活動であり、「高機能」と「高精密」をキーワードにした「CEBON」戦略の強化です。

今年も世界の政治・経済情勢や日本の景気動向に一喜一憂する一年となるでしょうが、「誠実に正道を歩む」基本理念を忘れず、進むべき方向を見失わず、一步一步協を締めて進みましょう。

そして「世界一のプラスチック専門商社」を目指して、傍々(はたはた)を楽にさせる「はたらく」と顧客を飽きさせない「あきない」を実践し、やりがいと陽気に満ち溢れた職場で「The Joyous Work」を実践しましょう。

今日から新年の仕事が始まりますが、皆さんにとって素晴らしい年となることをお祈りして年始の挨拶したいと思います。

以上